



Chapter 3 キャンパスライフ

キリスト教の大学ですので入学式から卒業式まで、またイースター礼拝やクリスマス点火式などキャンパスで行われるイベントがミッションスクールの雰囲気にあふれています。サークル活動も盛んで、全国的に活躍している部も多くあります。学生総数約2,000名という規模ですので、学生と教職員、学生一人ひとりが大変フレンドリーで、うれしいことがあれば共に喜び、困ったことがあれば助け合うという気風にあふれたキャンパスです。埼玉県を中心部大宮駅から一駅という交通の便に恵まれたところがありますが、キャンパスは緑にあふれ、四季の変化を豊かに感じることもできるのも特色です。

在学者数

学部学生数 (2017年5月1日現在)

政治経済学部

学科名	政治経済学科			コミュニティ政策学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	160	202	65	—	—	—	202
2年	160	137	37	—	—	—	137
3年	160	124	39	—	—	—	124
4年	100	132	26	—	7	0	139
合計	580	595	167	—	7	0	602

人文学部

学科名	欧米文化学科			日本文化学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	80	51	28	80	79	26	130
2年	80	42	16	80	74	24	116
3年	80	42	19	80	57	18	99
4年	80	61	30	80	101	46	162
合計	320	196	93	320	311	114	507

人間福祉学部

学科名	児童学科			こども心理学科			人間福祉学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	100	56	32	80	42	24	80	62	17	160
2年	100	58	35	80	24	10	80	31	14	113
3年	100	90	49	80	40	20	80	63	27	193
4年	100	100	56	80	60	29	80	83	35	243
合計	400	304	172	320	166	83	320	239	93	709

学生数総計

合計	1,818 (内女子数 722)
----	------------------

国籍別留学生数(2017年度)

※学部生のみ

国籍	男子	女子	総計
中国	92	70	162
ベトナム	68	91	159
ネパール	12	4	16
スリランカ	3	2	5
韓国	2	2	4
カンボジア	2	0	2
マレーシア	2	0	2
タイ	1	1	2
バングラデシュ	2	0	2
ウズベキスタン	1	0	1
アメリカ	0	1	1
ケニア	0	1	1
合計	185	172	357

学科・学年別留学生数(2017年度)

※学部生のみ

学科名	政治経済	コミュニティ政策	欧米文化	日本文化	児童	こども心理	人間福祉	計
1年	116	—	18	15	0	4	9	162
2年	56	—	13	10	0	3	3	85
3年	49	—	10	5	0	0	3	67
4年	28	—	7	4	0	1	3	43
合計	249	0	48	34	0	8	18	357

学生の退学(除籍含む)状況について(学部)

■4年間の退学(除籍含む)状況

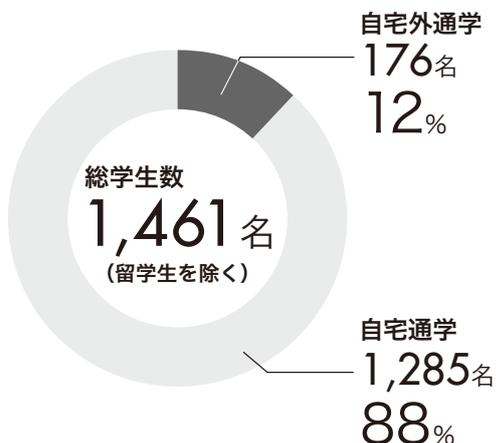
2013年4月に入学した学生数 555人
 そのうち2017年3月に卒業した学生数 399人
 そのうち2016年3月までに退学(除籍を含む)した学生数 96人

■1年間の退学(除籍含む)状況

2016年4月に入学した学生数 396人
 そのうち2017年3月までに退学(除籍を含む)した学生数 34人

通学状況 (2017年5月1日現在)

自宅・自宅外通学の割合



自宅外通学者の出身県

都道府県名	人数	都道府県名	人数	都道府県名	人数
埼玉県	30	千葉県	4	宮崎県	1
新潟県	28	神奈川県	4	不明	2
福島県	15	栃木県	3	合計	176
東京都	15	大阪府	3		
群馬県	13	秋田県	2		
宮城県	8	山梨県	2		
静岡県	8	沖縄県	2		
岩手県	7	北海道	1		
山形県	7	富山県	1		
青森県	6	福井県	1		
長野県	6	岐阜県	1		
茨城県	5	奈良県	1		

通学地域

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計	
新潟県	新潟市	0	1	1	
	長岡市	1	0	1	
	小計	1	1	2	
	古河市	13	0	13	
茨城県	結城市	7	0	7	
	取手市	2	0	2	
	ひたちなか市	1	0	1	
	猿島郡境町	1	0	1	
	下妻市	1	0	1	
	牛久市	1	0	1	
	坂東市	1	0	1	
	常総市	1	0	1	
	神栖市	1	0	1	
	土浦市	1	0	1	
	北茨城市	1	0	1	
	龍ヶ崎市	1	0	1	
	小計	32	0	32	
栃木県	宇都宮市	1	0	1	
	下都賀郡	3	0	3	
	下野市	2	0	2	
	佐野市	1	0	1	
	小山市	9	0	9	
	足利市	2	0	2	
	栃木市	2	0	2	
	日光市	1	0	1	
	小計	21	0	21	
	群馬県	高崎市	14	0	14
前橋市		4	0	4	
伊勢崎市		3	0	3	
藤岡市		3	0	3	
安中市		2	0	2	
渋川市		2	0	2	
太田市		2	1	3	
邑楽郡大泉町		2	0	2	
沼田市		1	0	1	
富岡市		1	0	1	
利根郡川場村		1	0	1	
吾妻郡中之条町		0	1	1	
小計		35	2	37	
埼玉県		上尾市	84	19	103
		川口市	74	1	75
		川越市	46	3	49
		さいたま市北区	40	64	104
	さいたま市見沼区	34	3	37	
越谷市	32	2	34		

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
埼玉県	春日部市	32	2	34
	熊谷市	30	2	32
	鴻巣市	30	2	32
	加須市	29	1	30
	久喜市	25	3	28
	さいたま市浦和区	23	5	28
	さいたま市西区	22	17	39
	深谷市	22	1	23
	桶川市	21	1	22
	さいたま市桜区	20	2	22
	さいたま市中央区	19	1	20
	さいたま市岩槻区	18	0	18
	さいたま市大宮区	18	3	21
	さいたま市南区	17	2	19
	狭山市	15	0	15
	北本市	15	2	17
	坂戸市	14	0	14
	所沢市	14	0	14
	草加市	14	1	15
	比企郡	14	0	14
埼玉県	新座市	13	1	14
	行田市	12	0	12
	さいたま市緑区	10	1	11
	戸田市	10	2	12
	羽生市	9	0	9
	三郷市	9	0	9
	朝霞市	9	0	9
	富士見市	9	2	11
	北足立郡	9	0	9
	蕨市	9	0	9
	入間市	8	0	8
	白岡市	8	2	10
	蓮田市	8	0	8
	志木市	7	0	7
	東松山市	7	0	7
	入間郡	7	2	9
	北葛飾郡	7	0	7
本庄市	7	0	7	
和光市	7	1	8	
児玉郡	6	0	6	
飯能市	5	1	6	
ふじみ野市	4	0	4	
吉川市	4	0	4	
日高市	4	0	4	
幸手市	3	0	3	

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
埼玉県	秩父市	3	0	3
	鶴ヶ島市	3	0	3
	南埼玉郡	3	0	3
	八潮市	3	0	3
	秩父郡	1	0	1
小計	926	149	1,075	
千葉県	野田市	5	0	5
	柏市	4	0	4
	流山市	4	0	4
	浦安市	3	0	3
	市川市	3	0	3
	松戸市	2	0	2
	佐倉市	1	0	1
	習志野市	1	0	1
	千葉市	1	0	1
	船橋市	1	0	1
小計	27	1	28	
東京都	あきる野市	1	0	1
	稲城市	1	0	1
	葛飾区	7	2	9
	江戸川区	7	0	7
	江東区	5	0	5
	港区	1	0	1
	荒川区	8	0	8
	国分寺市	2	0	2
	狛江市	1	0	1
	三鷹市	3	0	3
	渋谷区	0	1	1
	小平市	5	0	5
	新宿区	5	1	6
	杉並区	4	2	6
	世田谷区	10	0	10
	清瀬市	2	1	3
	西多摩郡	1	0	1
	西東京市	3	0	3
	青梅市	6	0	6
	千代田区	1	0	1
	足立区	20	1	21
	多摩市	1	0	1
	台東区	3	1	4
	大田区	5	0	5
中央区	0	1	1	
中野区	3	1	4	

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
東京都	町田市	2	0	2
	東久留米市	3	0	3
	東村山市	5	0	5
	東大和市	2	0	2
	日野市	3	0	3
	八王子市	1	1	2
	板橋区	21	3	24
	品川区	4	0	4
	府中市	2	0	2
	武蔵野市	2	0	2
	福生市	3	0	3
	文京区	4	0	4
	豊島区	7	3	10
北区	22	4	26	
墨田区	5	0	5	
目黒区	1	0	1	
立川市	1	0	1	
練馬区	16	0	16	
小計	209	22	231	
神奈川県	横浜市	12	1	13
	川崎市	10	0	10
	相模原市	1	0	1
小計	23	1	24	
不明		0	10	10

※学生の本人住所と保護者住所の一致の状況から算出。但し、留学生を除く。

施設

施設・設備について (2017年4月1日現在)

校地・校舎面積等	(㎡)
校舎・講堂・体育施設敷地	34,076
屋外運動場敷地	26,241
その他	1,996
計	62,313

SEIGブックセンター面積 (2014年11月開設)	(㎡)
書籍	21.96
書庫	6.32
計	28.28

ピアノ・オルガン台数	(台)
グランドピアノ	4
ピアノ・オルガン台数	22
エレクトーンピアノ	6
電子ピアノ	23
オルガン	3
計	58

建物の用途別面積	(㎡)
講義室・演習室	4,307
実験室・実習室	1,323
研究室	2,030
図書館	1,519
管理関係・その他	12,975
講堂(チャペル)	2,346
体育施設	1,081
計	25,581

PC・タブレット利用環境	
場所	備え付けPC
2号館	ノートPC75台
4号館	ノートPC83台
キャリアサポートセンター	ノートPC2台
総合図書館	デスクトップPC10台・ ノートPC66台・ タブレット27台
ラーニングセンター	ノートPC8台

学生ホール座席数	(座席数)
4号館1階食堂	189
4号館1階カフェ	36
4号館1階テラス	35
エルビス館1階食堂	190
エルビス館2階インターネットカフェ	63
エルビス館2階エルビスホール	68
エルビス館2階特別食堂	20
計	601

備蓄倉庫

聖学院大学は災害時における上尾市の防災拠点校となっており、上尾市役所から配給された備蓄品を倉庫に設置しています。

図書館利用状況 (2017年3月31日現在)

情報センターとしての機能も兼ね備えている図書館棟には、約30万冊の資料のほか、4階にグループ閲覧室、3階にはコンピュータ優先席、ビデオ、DVDを見るための視聴覚コーナーがあります。

開館時間(参考)

曜日	月～金	土	休館日
授業開講期間中	8:45～21:30	8:45～17:00	日曜・祝日、クリスマス、年末年始の定める日、 入試日、蔵書点検期間(年1回)等
その他期間	9:00～17:00	9:00～15:00	

蔵書冊数

年度	2016			2015	2014
	和書	洋書	小計		
合計	241,198	65,722	306,920	304,757	301,959
全国大学平均(2016年3月)					209,000
					(平均は図書館年鑑2016より)

館外貸出冊数

年度	全体(教職員・一般含む)			院生・学生・履修生のみ		
	2016	2015	2014	2016	2015	2014
合計	14,891	17,253	18,269	10,689	12,590	13,748
全国大学平均(2016年3月)					23,000	
					(平均は図書館年鑑2016より)	

その他の資料

和雑誌	389
洋雑誌	81
スライド	34
マイクロ資料	18,825
カセットテープ	745
ビデオ・LD・DVD	3,186
CD	1,393
CD-ROM	841

入館者統計

年度	2016	2015	2014
開館日数	283	283	281
入館者数	98,972	112,513	125,756

入館者数内訳

年度	2016	2015	2014
学生計	88,453	79,486	112,751
教職員計	7,557	8,875	8,979
一般	2,962	4,152	4,225

アクティブラーニング・スペース

図書館では、2014年2月にアクティブラーニング・スペース(AL室)が整備されました。AL室は、4つのグループ閲覧室から成り、各部屋にホワイトボード、電子黒板機能を備えたプロジェクター、可動式の椅子と机が設置されています。図書館は原則として静かにしなくてはいけない場所ですが、AL室ではディスカッションが認められていますので、ゼミの授業や学生同士のグループ学習などに活用することが出来ます。また、iPadを使用した双方向授業支援システムも導入されました。大学教育の質的転換が求められている今、図書館は「能動的な学修・アクティブラーニング」を支える施設として、活動しています。

アクティブラーニング・スペース利用件数(2016年度)

	(件数)
授業利用	242
図書館オリエンテーション	62
その他	39
計	343

聖学院学術情報発信システムSERVE利用状況(2014～2016年度)

聖学院学術情報発信システムSERVE(Seigakuin Repository for academic archiVE)は、聖学院の研究および教育の成果を収集・蓄積・保存するとともに、Web上で世界に向けて情報を発信するシステムです。このような学術研究成果発信のシステムは「機関リポジトリ」といわれ、世界中で多くの大学や研究機関が構築、提供しています。SERVEもこの機関リポジトリの一つです。また、聖学院の電子的情報の散逸を防ぎ、情報の組織的保存(アーカイブ)を目指しています。

<https://serve.repo.nii.ac.jp/>

年度	2016	2015	2014
登録件数	104	235	208
閲覧件数	125,918	356,969	244,250
DL件数	277,670	219,739	170,217

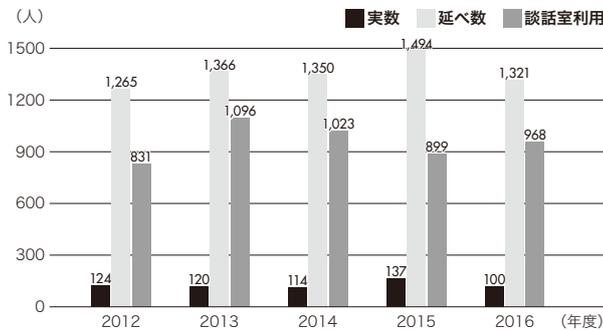
※閲覧件数とは、各紹介ページ(書誌)へアクセスした件数
※DL件数とは、添付されている本文データを開いた件数

学生相談室

学生相談室は、大学生活を送る中で悩みや問題が生じたり、自分についてもっと考えたいと思うときに、その解決のお手伝いをするところです。心理的な相談だけでなく、思いがけないトラブルに遭遇してしまったり、聞きたいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない時など、学生が気軽に相談できる窓口となっています。臨床心理士によるカウンセリングの他、静かに過ごしたい、ゆっくり考え事がしたいという方のための談話室を運営し、学生相談室便りを年に数回発行して心の健康の啓蒙活動も行っています。

開室時間 月～金 10:30-17:30

相談室利用状況(2012～2016年度)

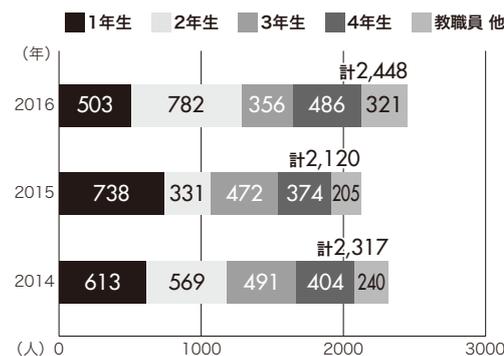


保健室

保健室では、けがや病気の応急処置の他に、健康関連の図書の閲覧や、アルコールパッチテスト、肥満指導も実施しています。授業期間中、毎週水曜日 14:00～15:00の間、学校医による診察や健康相談日も設けています。また、それ以外の日でも看護師による対症療法やアドバイス等も行っています。

開室時間 月～金 9:30-17:30 土 9:30-16:00

学年別来室者数(2014～2016年度)



課外活動

クラブ・サークル一覧 (2017年3月31日現在)

分類名	団体名	所属人数	
委員会・連合	学友会総務委員会	43	
	学友会文化会連合	7	
	学友会体育会連合	12	
	学友会特別委員会連合	9	
	第29回 ヴェリタス祭実行委員会	41	
	2016年度 卒業関連事業準備委員会	12	
演劇部	演劇部	9	
	軽音楽部サウンドスクエア	34	
	茶道部 表千家	23	
	写真部	8	
	文化会	東南アジアボランティア部 Rung	21
		放送部	12
		法学研究会	10
イラスト文芸部		41	
	アカペラ部～てくてく～	24	
文化会同好会	手話同好会	10	
	児童文化研究同好会	5	
	猫文化同好会	29	
	国際交流同好会 まのと	10	
	美術同好会	6	
	コメディ同好会 喜楽	5	
	華道同好会	8	
	書道同好会	5	
	ゲーム研究同好会カナン	11	
	ほたるクラブ	8	
	模型同好会	5	
	教職サークル	10	
	体育会	剣道部	8
		硬式庭球部	20
サッカー部		9	
スキー部 ALPINA		6	
男子バスケットボール部 poseidons		15	
軟式野球部		14	
バドミントン部		12	
バレーボール部		9	
陸上競技部		66	
		ソフトボール同好会 久米	16
体育会同好会	バスケットボール同好会 GRIP	19	
	バレーボール同好会	33	
	ダンス同好会 CRUSH	29	
	フットサル同好会 FC venceremos	30	
	卓球同好会	20	
	アウトドア同好会	41	
	スノーボード同好会	29	
	特別委員会	聖学院大学クリスチャン・フェローシップ	19
		聖学院大学聖歌隊	11
		聖学院大学ハンドベル・クワイア	5
聖学院大学フィルハーモニー管弦楽団		13	
聖学院大学ボランティア・アソシエーション		63	
	聖学院大学復興支援チーム SAVE	32	

アルバイト時間

学期中、アルバイトとして週何時間くらい働いていましたか。

(2016年度卒業生アンケート) 回答者数(312)、回収率70%

内容	回答数	割合
15時間以上	121名	39%
10時間以上15時間未満	87名	28%
5時間以上10時間未満	34名	11%
5時間以内	22名	7%
アルバイトはしていない	48名	15%

有効回答数より表を作成。

学費

学部 授業料等納入金(2017年度)

学科	学年	学期	入学金	授業料	教育 拡充費	施設費	後援会 入会金	後援会費	学友会費	学会費	卒業関連 事業費	同窓会費	学研災 ガウン代	合計	年間合計	
政治経済 欧米文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	875,300	1,350,300	
		秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000		
	2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	529,000	1,014,000	
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000		
	3年次	春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	539,000	1,034,000	
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000		
	4年次	春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	24,000	20,000	—	593,000	1,098,000	
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000		
	合計			280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	—	24,000	20,000	6,300	4,496,300	4,496,300
	日本文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	2,000	—	—	6,300	877,300	1,352,300
秋			—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000		
2年次		春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	531,000	1,016,000	
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000		
3年次		春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	541,000	1,036,000	
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000		
4年次		春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	24,000	20,000	—	595,000	1,100,000	
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000		
合計			280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	8,000	24,000	20,000	6,300	4,504,300	4,504,300	
児童 こども心理 人間福祉		1年次	春	280,000	380,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	900,300	1,400,300
	秋		—	380,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	500,000		
	2年次	春	—	390,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	554,000	1,064,000	
		秋	—	390,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	510,000		
	3年次	春	—	400,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	564,000	1,084,000	
		秋	—	400,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	520,000		
	4年次	春	—	410,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	24,000	20,000	—	618,000	1,148,000	
		秋	—	410,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	530,000		
	合計			280,000	3,160,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	—	24,000	20,000	6,300	4,696,300	4,696,300

(納入方法・その他の費用)

本学の学費等の納入時期は、春学期と秋学期の年2回納入となっています。

教育拡充費は、新入生オリエンテーションおよび教育用コンピューター維持に係る費用です。

教職課程などを履修する場合は、別途実習費用が必要となります。また児童学科、人間福祉学科で実習科目を履修する場合も実習費用が別途必要となります。

大学院 授業料等納入金(2017年度)

修士課程／博士前期課程

	学期	入学金	授業料	施設費	後援会費	学研災	合計	年間合計
初年度	春	280,000	365,000	60,000	5,000	1,750	711,750	1,136,750
	秋	—	365,000	60,000	—	—	425,000	
2年次	春	—	365,000	60,000	5,000	—	430,000	855,000
	秋	—	365,000	60,000	—	—	425,000	
合計		280,000	1,460,000	240,000	10,000	1,750	1,991,750	1,991,750

博士後期課程

	学期	入学金	授業料	施設費	後援会費	学研災	合計	年間合計
初年度	春	280,000	365,000	60,000	5,000	2,600	712,600	1,137,600
	秋	—	365,000	60,000	—	—	425,000	
2年次	春	—	365,000	60,000	5,000	—	430,000	855,000
	秋	—	365,000	60,000	—	—	425,000	
3年次	春	—	365,000	60,000	5,000	—	430,000	855,000
	秋	—	365,000	60,000	—	—	425,000	
合計		280,000	2,190,000	360,000	15,000	2,600	2,847,600	2,847,600

○修士課程は標準2年間、博士後期課程は標準3年間です。(表は春学期入学の例です)

○「長期履修制度」の利用希望者は、上記標準在籍年限(2年間)分の授業料を3年間または4年間で分納することになります。

なお、分割納入できるのは授業料のみです。(詳細は「長期履修制度募集要項」参照)

○アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程シニアコースは、標準修業年限2年のところを3年、または4年まで延長することが可能です。延長に伴い、ご負担いただくものは後援会費と学研災のみです。

奨学金

ルーラ・ロング・コムズ記念奨学金

減免について:年間授業料の30%を学納金より減免。減免期間は1年間。

対象:全学生(日本人)。主として家計を支えている人の昨年1年間の所得金額が700万円未満。

1年生は春学期、2~4年生は前年度学業成績GPA2.5以上。

募集期間:1年生9月上旬~10月上旬、2~4年生3月下旬~4月上旬

2016年度:51名 2015年度:49名 2014年度:50名 2013年度:51名 2012年度:11名

※2012年度以前はラーニングサポート制度として1年生のみ対象

聖学院大学特待生奨学金

対象:2~4年生

適用人数:各学科の各学年における上位5%の成績優秀者

資格:正課教育において優秀な成績を収めた者

発表:6月中旬

金額:年間授業料の50%

給付・貸与の別:給付(秋学期学納金より減免)

提出書類:奨学金採用受諾書

聖学院大学進学・修学支援制度

現在進行中の金融危機の影響で経済的な理由から大学進学をあきらめざるを得ない受験生を支援するために聖学院大学では2009年度一般入試で「緊急・経済支援特別入試」を実施いたしました。2017年度入学の受験生に対しても、自立修学を支援するものとして以下の通り支援計画を実施しました。

2017年度入学時支援

A 学費月払い制度の適用

- ・申請書に基づく選考によって決定。
- ・申請者のうち高校在学中に「学生支援機構第一種」に予約、確定した者は、入学後支援機構から振り込まれる費用を月々自動振替によって学費にあてることとします。

B 入学金免除

- ・申請書に基づく選考によって決定。
- ・入試ごとの審査により計30名まで。

採用人数

年度	2017	2016	2015	2014	2013	2012
学費月払い制度の適用	11	18	11	22	22	27
入学金相当額給付	10	18	12	22	16	28

聖学院大学災害被災者修学支援奨学金(東日本大震災被災者・修学支援制度)

東日本大震災にあっても、このために大学進学の夢をあきらめないでほしいと考え、特別入試制度と緊急経済支援措置を設けて、2011年度・2012年度は入試D日程特別入試を実施しました。被災を受けられた方は被災の状況により、最大で入学金の免除と一年間の授業料の全額免除が受けられます。この緊急経済支援制度は、聖学院大学災害被災者修学支援奨学金になりました。2017年度でも同様の入学支援を行います。

1. 対象

地震・風水害等の自然災害等により被災した学生

2. 対象者

- (1) 家計支持者が死亡、又は家計支持者の居住する家屋が全壊もしくは全焼した者
- (2) 家計支持者が居住する家屋が半壊もしくは半焼した者
- (3) 家計支持者が居住する家屋が床上浸水した者
- (4) 家計支持者が居住する家屋が床下浸水または一部損壊した者
- (5) 災害にともない経済的に困窮した者。ただし学生本人の父母又はこれに代って家計を支えている者(主たる家計支持者一人)の収入金額が、下記a、bのいずれかである者

- a. 給与所得者 700万円未満
- b. 給与所得者以外 350万円未満

※この項目でいう収入金額とは、「給与所得者」にあっては源泉徴収票の支払金額(税込)とし、「給与所得者以外」にあっては確定申告書等の所得金額(税込)とする。

3. 支援措置内容

選考の上、下記の措置を決定いたします。

- 対象者(1)については、
入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の全額を免除する。
- 対象者(2)については、
入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の50%を免除する。
- 対象者(3)については、
入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の25%を免除する。
- 対象者(4)については、入学金を免除する。
- 対象者(5)については、
入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の50%を免除する。

4. 採用人数

2015年度:新入生2名 2014年度:新入生1名 2013年度:新入生2名
2012年度:新入生2名 2011年度:18名 (在学生11名/新入生7名)

奨学金利用者数

聖学院大学独自奨学金給付・貸与者数

年度	2016	2015	2014
チャールズ・エリアス・ガルス奨学金	7	7	6
女子聖学院短期大学記念国際交流奨学金	14	22	11

年度	2016	2015	2014
聖学院大学後援会修学援助奨学金	0	2 春学期0 秋学期2(給付1)	1 春学期0 秋学期1(給付1)

日本学生支援機構奨学金新規貸与者数

日本学生支援機構の奨学金は、学業に励む学生自身に貸与されるものです。したがって卒業後、学生自身が返還することになります。返還金は、後輩の奨学金として再び活用する仕組みになっています。

年度	2016	2015	2014	2013	2012
第一種奨学金	37	41	39	65	45
第二種奨学金	93	119	139	172	184

留学生授業料減免対象者数

※学部生のみ

年度	2016	2015	2014	2013	2012
単位規定(30%)	205	174	178	199	193
成績上位(30%)	21	16	21	36	46

外部奨学金給付者数

現在聖学院で取り扱っている奨学金は、上記奨学金以外にも都道府県・民間育英団体などからの各種奨学金があります。募集期間はほとんどが4~5月に集中しています。これらの奨学金は、給付・貸与の別、奨学金、採用人数、金額など条件が各々異なり、採用人員が少数です。

年度	2016	2015	2014
篠原欣子記念財団	1	1	0

※2014年度設立

その他の主な修学支援制度(奨学金/教育ローン/自立支援)

- ・聖学院大学 学費サポートプラン
- ・授業料月払い制度
- ・ジャックスの教育ローン
- ・キャンパス自立支援制度[生活サポート基金]
- ・みずほ銀行提携教育ローン

ボランティア活動

聖学院大学では、東日本大震災の被災地の復興支援をきっかけに、2011年5月、復興支援ボランティアセンターが設置。2012年度には、ボランティア活動全体を支援するボランティア活動支援センターが設置され、復興支援だけでなく、地域支援活動にも広がりが出てきています。

1. 東日本大震災復興支援活動

(1) 被災者親子への支援活動等

こども心理学科・金谷京子、児童学科・坂本佳代子(共に教員)及び臨床発達心理士会により、以下のような支援を継続。(2011年～)

・加須・所沢に避難している親子への支援 ・いわき市仮設での遊び広場開催 ・南相馬の専門職研修・保護者心理相談 ・熊本の子ども広場支援・専門職研修

(2) 岩手県釜石市を主な拠点とした活動(2016年4月～2017年3月)

2011年12月より岩手県釜石市にて復興支援活動に取り組んでいます。春の「桜プロジェクト」、夏の「よいさっ!プロジェクト」、冬の「サンタプロジェクト」など年間を通じて活動しています。

日程	内容・場所	参加人数
4月15日～17日	さいたま市「清香園」協力により盆栽桜約100鉢を現地の希望者へ贈呈配布するボランティアスタディツアー「桜プロジェクト5」を実施	鶴住居地区ほか 学生9名、教職員5名
8月5日～8日	ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト3」 「釜石よいさ」の参加、子どもたちを対象とした「かまっこ★あそびーランド」の実施。常盤高校、聖学院高校の生徒も参加。	岩手県釜石市、宮城県気仙沼市 学生34名、教職員9名、 高校生22名、高校教員3名
12月2日～4日	ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト6」 被災地見学、郷土料理づくり、交流会、こどもクリスマス会、仮設住宅の清掃等	釜石市鶴住居地区、 唐丹町、橋野町 学生33名、教職員8名、 一般2名

※そのほか、学内外での被災地支援募金活動を複数回実施

(3) 宮城県仙台市を拠点とした活動

東北教区被災者支援センター・エマオを拠点に学生中心に子どもの遊び場と農業支援を実施(2015年～)

2. 地域連携活動他

2013年4月、地域連携・教育センターが開設し、以降、さいたま市、上尾市、春日部市、埼玉県、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開しています。また、埼玉県内のボランティア活動に取り組む大学生のネットワーク組織「さいたま学生ボランティアネットワーク～わかたま～」の運営に、聖学院大学の学生も参加しています。

日程	内容・場所	参加人数
2016年4月1日	コスモス・アース入所式 演奏・ボランティア参加	コスモス・アース 学生11名
4月23日	コスモス・アース味噌づくり	コスモス・アース 学生8名、職員1名
4月25日～28日	SAVE 熊本地震被災者支援のための募金活動	本学 学生15名
5月18日、19日	わかたま合同企画「熊本地震被災者支援のための募金活動」実施	大宮駅 4大学32名(内本学21名)
6月4日	上尾市環境推進大会 ボランティア参加	上尾市文化センター 学生7名
6月4日	ボランティア活動助成公開審査会・ドネーションパーティ	本学 約60名(学生・職員約20名、 地域の方約40名)
8月28日	若竹ホーム 納涼祭	若竹ホーム 学生7名
9月8日、9日	大学ボランティアセンター全国フォーラム2016参加	同志社大学 職員1名
9月9日	江戸里神楽第9回公演 ボランティア参加	彩の国さいたま芸術劇場 学生4名
9月30日	宮原駅「踏切事故防止キャンペーン」	宮原駅周辺 学生4名、職員1名
10月16日	コミ協フェスタ in 大谷 アカベラ部ステージ・復興支援活動紹介展示参加	上尾市民体育館 学生22名
10月22日、23日	コスモス・アース 秋のコスモス祭り参加	コスモス・アース 学生2名
10月23日	さいたまKI-TAまつり2016	宮原駅ロータリー 学生25名、他教職員
10月29日、11月23日	上尾市体操スタンプラリー ボランティア参加	上平公民館、大谷公民館 学生8名
11月2日、3日	ボラフェス2016(ヴェリタス祭)	本学 学生14名、来場者1,150名
11月3日	上尾市PR活動(ヴェリタス祭)ボランティア	本学 学生4名
11月12日、13日	あげお産業祭 アカベラ部ステージ・ボランティア参加	上尾市民体育館 学生30名
11月26日、27日	上尾消費生活展 ボランティア参加	上尾市コミュニティセンター 学生10名
12月7日	宮原にサンタがやってくる(主催:宮原青年クラブ)ボランティア参加	宮原駅東口公園 学生3名
12月17日	大谷支所との連携企画「防災講座」を実施	本学 学生5名、地域の方24名
1月10日～1月20日	宮原駅「ググッとぐんまフォトコンテスト」協力	宮原駅 学生3名
2月25日、26日	親善リトルリーグ野球大会 ボランティア参加	大宮西高校 4名
2月28日	彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワークとの連携企画「あったか福祉交流サロン」実施	本学 学生・教職員18名、地域の方16名
3月10日	「3.11 いま僕たちにできること」協力	聖学院高校 学生5名、職員1名
3月11日	「東日本大震災を覚えて～礼拝と集い～」開催	本学 61名
3月11日	SAVE×聖学院高校生徒会合同募金 in 大宮	大宮駅 1大学1高校17名(内本学12名)
3月19日	こども★夢★未来★フェスティバル2017	埼玉県県民活動総合センター 学生11名
3月26日	第4回スマート・サイクルフェスタ アカベラ部ステージ・ボランティア参加	上尾丸山公園 学生22名、職員1名

※そのほか、学内外での被災地支援募金活動、ボランティア講演会などで事例報告等を複数回実施。

3. 学生サポートメンバー養成講座

学生と共につくる、育つセンターを目指し、2012年のセンター開設時から年1回、「聖学院大学のボランティア活動を盛り上げる」学生コーディネーター養成を目的とした講座を実施。